

授 業 科 目 の 概 要

科 目 名	内 容 ※授業内容は変更になる場合があります。
健康スポーツ I	健康スポーツ I では、各種身体運動の方法を実践学習し、健康の保持増進と体力の向上、運動の意味や効果の理解を図りながら、運動することへの自覚を一層促進する。また、スポーツ活動を通して、運動や運動技術のみにとどまらず、集団のなかの一員としての役割等から協調性や社会性を身に付ける。内容については、準備運動（ストレッチを含む）の仕方、集団スポーツの学習、個人スポーツの学習からルール・技術・ゲームの仕方を学修し、生涯スポーツの取り組みを見据えた授業とする。
基礎インドネシア語	インドネシア語の初学者を対象とし、インドネシア語の基礎を身に付けることを目標とする。教科書に基づいて段階的に文法を学習しながら基本的な単語を修得していく。特に、日常会話について、インドネシア語でコミュニケーションがとれるようになることを目指し、発音練習や会話練習を積極的に行う。また、語学にあわせて、インドネシアの生活習慣などについても映像資料等を用いながら解説し、その内容を会話表現等に結びつけて解説を行なう。
子どもの保健	現在の小児保健の現状と子どもの心身の健康増進を図る保健活動について学ぶ。保育専門職として、子どもの健康と評価方法を理解し、様々な疾患や障害、子どもの病気に特徴的な症状と保育者としての対応について知識を深める。そのために、成人とは違う子ども特有の生理機能・運動機能を学習しながら、現代社会における子どもの健康に関する現状と課題を踏まえ、母子保健・地域保健活動を通して、保育士の役割について考えていく。
子どもの保健 II	[授業の目的・ねらい] 子どもの疾病や事故の特徴とその予防についての基礎知識をもとに適切に対応するための技術を修得し、保健活動の計画及び評価、子どもの心とからだの健康問題や地域保健活動等についてグループワークを通して理解できるよう演習を行う。 [授業全体の内容の概要] 子どもの保健 IA・IB で学習した知識や理論を踏まえ、実際の保育現場や保健活動の場において活用するための基礎的知識と技術を習得する。また、乳幼児の基本的な健康及び成長発達の観察方法と評価方法についても習得する。
乳児保育	[授業の目的・ねらい] 乳児期は、人間形成の基礎ができる重要な時期である。乳児を取り巻く環境を踏まえ、乳児期（3歳未満児）の成長や発達、生活、遊び、環境、保健等についての基本的な知識を身に付けるとともに、乳児保育の歴史の変遷や母子保健の統計から現状を理解する。 [授業全体の内容の概要] 保育所や乳児院で乳児保育（3歳未満児）を担当する保育士として、必要な保育の理論や知識、技術的な基本スキルについて学ぶ。低年齢児の保育の概念と意義、保育者としての関わりについて講義や演習を通して学ぶ。
保育内容 人間関係	[授業の目的・ねらい] 保育所保育指針や幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領における領域「人間関係」の内容を理解し、乳幼児期の人間関係の発達に必要な保育の指導法を身に付ける。 [授業全体の内容の概要] 保育所保育指針や幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領における領域「人間関係」の内容に基づき、「環境を通して行われる保育」の原理をふまえ、乳幼児期の人間関係の発達についての知識を学び、人間関係の発達のために実践される保育内容の指導法を理論や実践事例から学ぶ。また、子どもの家庭や地域での生活をめぐる社会的な問題を考察することを通じて、子どもの人間関係の発達のために保育者が家庭や地域で担う役割とは何かを学ぶ。そして、授業で学んだ知識を総合して、子どもの人間関係を育む活動や保育指導案を考案する。

科目名	内 容 ※授業内容は変更になる場合があります。
初等算数科教育法	<p>教員として必要な小学校算数科の内容について、目標論・内容論・方法論・評価論という観点から、授業実践を基に考察する。そのため、我が国の算数教育の史的変遷及び諸外国の算数・数学教育の動向を基に、「数と計算」「図形」「測定」「変化と関係」「データの活用」領域に関する算数科の内容を理解すると共に、算数科の授業実践の在り方を考察・検討する。</p>
教育相談の基礎と方法 (小・幼)	<p>教育相談とは、カウンセリングの考えや技法を活用した教師による教育活動である。本授業では、教育活動や教育現場に関連する心理的知見を幅広く紹介する。具体的には、学校におけるいじめや不登校などの問題行動についての理解と対応、主な発達障害の理解と対応および特別支援教育の在り方について、およびカウンセリングの基礎、保護者支援のあり方について学習する。そして、教育現場で実践される様々な教育活動の意味や背景を理解する。</p>
知的障害児の心理	<p>乳幼児期から学齢期に至る発達過程での知的障害児のアセスメントとその結果に基づく実態把握、発達段階別の早期発見の指標についての理解を深めるとともに、知覚、学習、言語発達、概念形成、数概念、記憶、問題解決、動機づけ、姿勢運動の発達、及び他の障害を併せ持つ知的障害の特徴、問題行動の背景等について、知的障害の心理的特徴を解説する。知的障害児の問題行動の発生機序、問題行動への支援のあり方を検討する。</p>
総合英語Ⅱ (リスニング)	<p>英語の音声に関わる基本事項(母音・子音の発音、音変化、強弱リズム、イントネーション)についての知識を身に付け、その知識をトレーニングによりリスニングとスピーキングの実践的スキルとして体得することを目標とする。授業では、パラレル・リーディング、シャドーイング、ディクテーションを中心としたトレーニングを行う。それにより、英語の正しい音声イメージと様々な話題や状況で実際によく使われる口語表現を内在化させ、リスニングとスピーキングの力を養う。</p>
日本の歴史Ⅰ (文化史)	<p>天変地異を文化史の側面から考察し、江戸時代の人々が我が身に降りかかった天変地異をどのように理解したのか、そしてどのように対応したのかを検証する。天変地異を切り口として、過去もまたひとつの「異文化」であることを理解すること、ならびにわたしたちの文化と社会を相対的に捉える視点を獲得することが授業の目的である。授業は、毎回ひとつないし関連する複数の天変地異を取り上げ、当時の人々の記録を読み解きながら進めていく。</p>
日本語学概論Ⅰ	<p>他の言語と比較対照しながら、世界の中の日本語(口語を含む)がどのような言語かということ概観する。高校までは、外国語は英語しか学んでいない人が多いが、英語との対比のみで、日本語の特殊性を語ることの安直さを避け、様々な言語と比較対照することで、日本語への偏見(欲目 or 卑下)をなくし、言語そのものの性質を学ぶことを目的とする。具体的には、目標として、音声(子音・母音体系)・文字の体系・文構造(述語構造・副文構造・結束性 etc.)を学び、日本語の特徴を考える。この授業は、「日本語文法論」や「対照文法」などの基礎となる。</p>
メディア英語Ⅰ (基礎)	<p>現代人が直面する健康問題を中心とした英文ニュース記事を中心に読みながら、英語読解と概要把握、ディクテーション、重要表現・構文を使った英作文、語彙力の確認などを行う。</p>
国語科教育法Ⅰ	<p>国語科教育の歴史的変遷と構造を体系的に理解するとともに、授業構想の起点となる教材と学習者について理解を深めることを目的とする。本科目では特に「読むこと」領域を対象とし、教材分析と指導内容の設定の仕方、授業を構想・改善・評価するための学力評価の方法について理解を深めていく。</p>
英語科教育法Ⅰ	<p>学習指導要領の記述内容を理解したうえで、英語教育学が扱う諸分野について書かれたテキストの内容を理論的側面と教育実践的側面から考察する。</p>

科目名	内 容 ※授業内容は変更になる場合があります。
日本の歴史Ⅲ（近世）	今日の日本の社会や文化の基層をなす江戸時代の社会と文化について学ぶとともに、歴史研究の基本的な手続きである史料批判について理解を深める。授業では、「鎖国」「士農工商」「生類憐みの令」「元禄文化」「田沼時代」「百姓一揆」といった高校までの日本史の授業で学習してきた事項について近年の研究成果を紹介し、当該期の社会や文化、史料批判の重要性などについて講義する。島根の事例を交えて説明することで、地域の歴史を相対化して捉える視点も養う。
日本語文法論	日本語の文法構造の詳細を学ぶことを目的とする。日本語学概説Ⅰ・Ⅱが履修されて基礎的な内容を理解していることを前提に進められる。内容は、現代の日本語学の中においてよく扱われている文法カテゴリー（「主語」「時制・アスペクト」「態」「モダリティ」「副文構造の特徴」「否定」「指示詞」etc.）を対象として、その振る舞いを学ぶだけでなく、これらの対象を扱う際に何に注意して考えるべきなのかを問いながら、自分自身で日本語の文法について考えられるようになることを到達目標とする。
地域とことば	言語というものが地域によってどのような展開を見せるのかを、地域社会との関係を通して学ぶことを目的とする。地域の特徴（行政や方言分布）によって、言語の変化にも影響が及ぼされる。地域ごとにさまざまな現象があるので、海外の事例なども踏まえ、本学が位置する島根県の方言などを取り上げながら、地域の言語を考えていく。島根県は、出雲方言と石見方言とで大きく異なっているが、県庁所在地が位置する松江は出雲方言の地域に位置していることから、石見方言にも影響を及ぼしている例などを扱う。また、世界に目を向けどのような言語状況があるのかも概観する。
日本語学演習Ⅰ	現代日本語を対象とした学校文法を取り上げ、現在日本語学で行われている文法とどのような関係にあるのかを明確することを目標とする。学校文法は、学校教育の中で広くおこなわれ教えられているため、日本語学における文法を学ぶ上でも非常に重要であるが、それらの発展の仕方は大きく異なっていたため、学校文法が現代日本語文法論の中でどのように重なり、違うのかが、学習者にわからない。そこで、学校文法を出発点にして、現代日本語文法では、その部分がどのように記述されており、なぜ学校文法と異なる分析になるのかを学ぶ。
近代文学Ⅳ （絵本と童話）	絵本と童話に関する知識と鑑賞力を養い、児童文学について理解を深めることを目標とする。絵本と童話の歴史を紐解きながら、多種多様な絵本と童話の世界を具体的に鑑賞し、内容を考察する。学内にある児童図書専門図書館「おはなしレストライブラリー」を利用して、学生による読み聞かせ、ブックトーク（テーマを決めて数冊の絵本・童話を紹介する）やポップの作成を取り入れながら授業を進行する。ストーリーテリングや日本独自の文化である紙芝居についても取り上げる。
英文法Ⅰ	これまでの英語学習で蓄積された文法知識を体系的に整理しながらさらに英語学的に深め、ことばの運用を背後で支える文法についての知識を確かなものにすることを目標とする。授業では、例文が示す様々な言語現象に対して「なぜ」を問い、その背後にある英語の意味上・統語上の規則性を探って考察し、文法分析の基本的な考え方や視点を身に付ける。文法項目を前篇と後編に分けてそれぞれを「英文法Ⅰ」と「英文法Ⅱ」で扱うので、全体を網羅するためにも、Ⅰ、Ⅱともに履修することが望ましい。